

(4) 白木原駅東口駅前広場

① 舗装

【方針】

高架下と広幅員歩道が一体となり、広がりを感じられる舗装とします。

【デザインについて】

- 高架下の広場と広幅員歩道の舗装を統一する等、一体的なデザインとする。
- 舗装材は高架下の広場の特性や広幅員歩道の景観を考慮し、可能な範囲で高質なものを採用する。



② ファニチャー（全箇所共通事項）

【方針】

ベンチ等のファニチャーは、空間の広がりを感じられる控えめでシンプルなものを配置します。

【デザインについて】

- 空間の広がりを感じられる控えめでシンプルなデザインとする。
- 素材感が感じられ、利用してみたいくなるデザインとする。
- 多様なイベントに対応できるよう移動可能なものも検討する。



③ 安全施設（全箇所共通事項）

【方針】

車止めや柵等の安全施設は、安全性を担保しつつ、控えめでシンプルなものを配置します。

【デザインについて】

- 空間の広がりを感じられるように、控えめでシンプルなデザインとする。
- 透過性が高く、景観を阻害しにくいデザインとする。



※白木原駅舎外装デザインイメージについて

駅前広場整備においては、駅舎のデザインとの調和に配慮します。

■デザインコンセプト

- 『ここから始まる 人と人とのコミュニティエントランス』

■イメージカラー

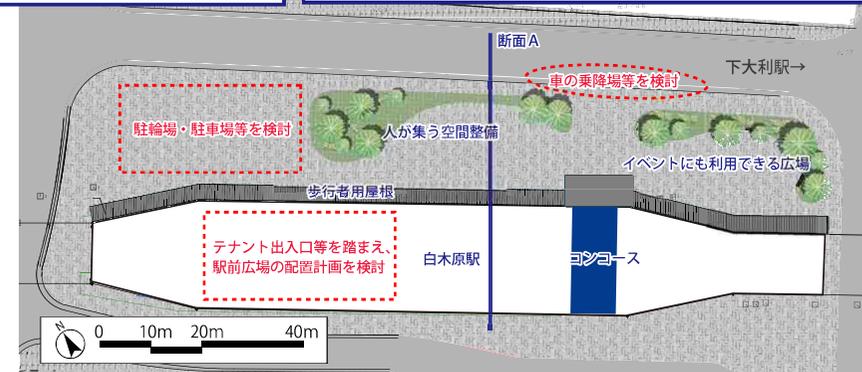
- 牛頸川、御笠川の水より 『薄水色』

■イメージマテリアル

- 白木原駅付近の大野小学校のセンダンの木（大野城市の天然記念物）より 『木』



※この図は、駅西側のパース図です。
※駅舎及び駅前広場のデザインは、イメージであり、実際とは異なる場合があります。



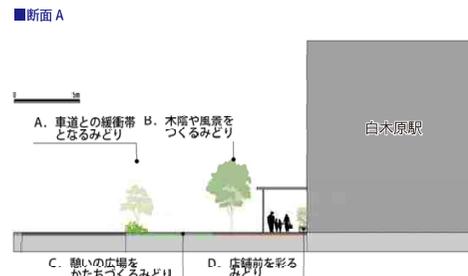
④ 植栽

【方針】

公園のようなみどり豊かな歩行空間を形成します。

【デザインについて】

- 車道との緩衝帯となるみどり
 - 中高木、低木、地被を中心としたボリューム感のあるみどりを配置し、みどり豊かな歩行空間を創出する。
- 木陰や風景をつくるみどり
 - 広場や休憩場所に木陰や季節感を演出するみどりを配置し、うるおいと彩りの憩いの場を創出する。
- 憩いの広場をかたちづくるみどり
 - 広幅員歩道部に部分的に芝生を張り、公園の芝生広場のような憩いの空間を創出する。
- 店舗前を彩るみどり
 - 花壇等のみどりを配置し、店舗や駅舎周辺を彩る。



⑤ サイン（全箇所共通事項）

【方針】

目立ちすぎずシンプルで効果的な案内や誘導を促すものを配置します。

【デザインについて】

- サインは地面や高架構造物の柱、店舗の壁等を積極的に活用して、支柱の省略化や集約化を行う。
- 効果的に案内や誘導を促すために、統一かつシンプルなものを基本とする。
- 独立して設置する場合は、周辺環境に調和し、装飾的ではないシンプルなデザインとする。



⑥ 照明

【方針】

歩行者の安全性に配慮した照度を確保し、住宅街や高架下周辺の景観に調和する照明を配置します。また、憩いの空間を演出する落ち着いたやわらかな照明とします。

【デザインについて】

- 駅前広場は、交通結節の場として、スムーズな通行が可能な明るさを確保するとともに、まちの玄関口として駅舎と広場が一体となり駅前空間の雰囲気づくりを行う。
- 夜間でもファニチャーを利用しやすく、演出照明にもなるように、器具が目立ちにくいように配慮する。
- 滞留スペース部は、歩行者の歩きやすさに配慮して、角部に低ポール照明の配置を検討する。



※図や写真はイメージであり、確定したものではありません。